

令和8年9月29日

報道機関 各位

熊本大学

「熊本大学で行う菊池恵楓園絵画クラブ金陽会作品展 2026」

開催のお知らせ

熊本大学の大学祭のシーズンにあわせて、くすの木会館で「熊本大学で行う菊池恵楓園絵画クラブ金陽会作品展 2026」を開催いたします。

皆さんはハンセン病問題を知っていますか。令和元年から続いたコロナ禍を乗り越えた私たちは、病気に対する根拠のない偏見が、人々の平穏な暮らしを容易に破壊してしまうことを身をもって知りました。ハンセン病問題は、まさに、そのような偏見が生み出した制度的差別の歴史だったのです。

1907年に「癩予防ニ関スル件」が制定され、戦後の1953年に「らい予防法」と改称され、1996年に法が廃止されるまで患者の隔離は続きました。科学技術が進歩した1990年代になっても隔離が続いた背景には、ハンセン病は確実に治る病気であるという医学的事実や特効薬である「プロミン」の存在など医学の常識が十分に浸透していなかったという問題がありました。根拠のない偏見が入所者の平穏な暮らしを奪っていたのです。

今回の展示では、国立療養所菊池恵楓園絵画クラブ「金陽会」の作品を通じて、「知らない」ということを知り、差別の中で人間らしい生活を取り戻そうとした入所者の人生の証しに触れていただけたらと願っています。

ご関心をお持ちのメディアの皆様におかれましては、広く一般の方へお知らせいただくとともに、取材にお越しいただけますと幸いです。

記

- 【日時】2026年10月30日（金）～11月9日（月）9：00～17：00
- 【場所】熊本大学黒髪北キャンパスくすの木会館
（〒860-8555 熊本市中央区黒髪2丁目40番1号）
- 【対象】熊本大学教職員・学生及び一般市民（興味があるかたはどなたでも）
- 【参加費】無料
- 【申込方法】事前申し込み不要

※詳しくは別紙チラシをご覧ください。

【お問い合わせ先】

熊本大学大学院人文社会科学部（法）
アウトリーチ人権講座
徳永 達哉
E-Mail：tokuzemi.ku@gmail.com

熊本大学黒髪北地区



※お車でお越しの際は、「北地区門衛所」にて手続き後、西側ゲートから入構してください。車は空いている駐車場へ停めていただいて構いません。

熊本大学で行う菊池恵楓園絵画クラブ金陽会作品展 2026



《砕石場》 吉山安彦 1998年 油彩 キャンバス

「知らない」を觀に行こう。

熊本大学 黒髪キャンパス くすの木会館
2026年10月30日(金)~11月9日(月)9:00~17:00

入場無料

vol.26

国立療養所菊池恵楓園絵画クラブ「金陽会」は1953年に発足しました。日常から隔絶された人々が、人間らしく生きるうえで出会ったものが絵画でした。作品のモチーフは記憶に残る郷里の風景や、園内の風景、果たせなかった願いなど様々で、独創的なその一枚一枚に生命の「光」を感じます。作品の数は950点以上、これらの作品は「光の絵画」と呼ばれ、その芸術性が高く評価されています。近年は、NHKの日曜美術館(2019)で取り上げられたり西日本文化賞(2024)を受賞したりと絵画の持つ力が高く評価されています。物言わぬ絵画が語りかけてくる、その声に耳を傾けてください。

ハンセン病に対する偏見や差別の問題は未だ十分に知られておりません。多くの国民が「知らない」のです。この絵画展が、熊本の地域的課題でもあるハンセン病問題を「知る」機会となれば幸いです。

熊本大学法学部附属 地域の法と公共政策教育研究センターでは、アウトリーチ人権講座を開催するなどハンセン病問題の解決に取り組んでいます。学生のみならず、熊本の皆様にも金陽会の作品に出会っていただき、差別問題について「知らない」ことが多いのだということを知っていただければと願っております。

会場 黒髪キャンパス くすの木会館 19

主催：熊本大学大学院人文社会科学部(法)アウトリーチ人権講座(徳永達哉)

共催：熊本大学法学部

連絡先 tokuzemi.ku@gmail.com

熊本大学法学部附属地域の法と公共政策教育研究センター

協力：国立療養所菊池恵楓園入所者自治会絵画クラブ金陽会

国立療養所菊池恵楓園 一般社団法人金陽会

企画：蔵座江美(キュレーター)

元熊本市現代美術館主任学芸員。2002年の開館当初から菊池恵楓園と関わり、菊池恵楓園絵画クラブ金陽会の作品展「光の絵画」を企画・担当。
現在一般社団法人金陽会理事として菊池恵楓園絵画クラブの作品の調査に携わる。
作品展「「知らない」を觀に行こう」を企画し、日本各地で開催している。

